

2025

summer

MINSAI
CENTER



vol.

96

ダニ二一

通信

新たな体制で本格スタート



タイの生徒たち

2-3p. 理事長辞任・就任の挨拶

4-5p. 社会貢献活動『夢の架け橋』でつなぐ支援と絆 株式会社ミラック光学様

6p. メコン5ヶ国制服紹介 ～なぜ制服が！？～

7p. 上田さんの民際コラム「貧困の統計と現実」

8p. 事務局掲示板＋編集後記

■辞任の挨拶

児玉忠弘

私、児玉忠弘は、2025年1月31日付で、長年にわたりお世話になりました当団体を健康上の理由により辞することを決意いたしました。理事長としての任期は多くの課題や困難もありましたが、それ以上に多くの方々の支えを受け、心強く活動が続けることができました。以下、これまでの活動報告を示します。



私の民際センターとの関わりは 2005 年から 2008 年の諮問委員時代にまで遡ります。タイ東北部イサーン地方で民泊（現地の村人たちの家に宿泊）した際にドラム缶のお風呂につかったことが懐かしく思い出されます。20 年前のタイでは、現地の子どもたちの多くは日照りの中を裸足で登校していました。彼らのために私は自転車支援プロジェクトを立ち上げ、計 2,000 台の自転車を現地へ届けることができました。またラオスへ赴き、当時民際センターで実施していた校舎建設地を視察して回ったこともございます。

あれから 20 年の年月を経て、秋尾前理事長から現職を託された 2024 年は、企業・団体・個人などの一部支援者様との面会、ベトナム・カンボジア・タイへの出張、各事業所長たちとの面談、現地学校の視察、そしていち支援者としての災害寄付や奨学生支援などを通じて、諮問委員としての経験を最大限に活かしつつ理事長職を全うすることができました。

振り返れば、民際センターが目指す「教育支援活動」において、皆様の温かいご理解と協力があったからこそ、ここまで歩んでこられたことに深く感謝の気持ちを抱いております。

今後は、これまでの経験を活かし、顧問として新理事長へのサポートを地道に継続すると共に、いち支援者として支援を続けてまいる所存です。今後とも、公益財団法人民際センターへのご支援を心からお願い申し上げます。



カンボジア支援校訪問時、迎えてくれたダルニー奨学生たち

■理事長就任挨拶

神田 広興



2025年2月1日付で、公益財団法人民際センターの理事長に就任いたしました。理事長としての重責を前に、改めて当団体がこれまで築いてきた歴史の重みと意義を深く感じております。1987年、創業者・秋尾初代理事長がタイ・ウドーンターニー県で出会った少女ダルニーちゃんとのご縁から始まった活動は、37年以上にわたり継続され、延べ44万人以上の子どもたちの教育を支えてまいりました。これはひとえに、全国の支援者様、ボランティアの皆様の温かいご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

現在、当団体は物価高騰や円安など影響を受け大変厳しい財務状況に直面しておりますが、支援の輪を広げるための広報活動の強化、業務効率化によるコスト削減、さらには民際サポートプログラムの強化や、既存の支援者様との継続的な関係づくりなど、さまざまな取り組みを職員一同で推進しております。

加えて、組織の基盤強化にも力を入れており、今年1月にはICT担当者を新たに迎え入れました。専門業者との連携体制を整えることで、業務の効率化と安定したオペレーションを実現しつつあり、限られたリソースを最大限に活かし、より多くの子どもたちへ確実に支援が届く体制が整いつつあります。

今後は「活動の見える化」をさらに進め、支援者の皆様と直接交流できる機会を増やしてまいります。オンラインや各種イベントなどを通じて、活動への理解と共感を深めていただけるよう努めてまいります。また、コロナ禍で中止していたスタディーツアーの再開も前向きに検討しており、現地の「今」を共有し、未来の支援の在り方を共に考える機会としていきたいと考えております。

変化の激しい時代だからこそ、「1対1でつながる教育支援」の価値は、ますます高まっていると確信しています。一人でも多くの子ども達に笑顔と学びの機会を提供するため、信頼される団体であり続けるために、皆様の声に真摯に耳を傾け、着実に歩みを進めてまいります。今後とも、変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

社会貢献活動『夢の架け橋』でつなぐ支援と絆

株式会社ミラック光学

代表取締役 村松洋明 様

「民際センターへのご支援のきっかけは何ですか？」と支援者様にお尋ねすると、そこには百人百様のストーリーがあります。今回は、2007年からダルニー奨学金を通じてメコン5ヵ国への支援を続けてくださっている株式会社ミラック光学の村松社長にお話を伺いました。同社は顕微鏡及び光学関連機器の設計・製造や、人工知能ソフトウェアの研究・開発などを行う精密機器・光学機器メーカーです。『夢の架け橋』を合言葉に、社会貢献活動の一環として奨学金支援をされています。

＜民際センターへご支援を決められたきっかけを教えてください。＞

まず、弊社は30年ほど前のバブル崩壊の時代に、倒産・廃業の危機に瀕しました。そういう厳しい状況の時に優しく手を差し伸べ、助けようとしてくれたお取引先様などからのご恩を、いつか今度は自分が社会に“恩送り”したいという想いが心の中にありました。そんな時、ある雑誌の記事でダルニー奨学金のことを知り、恵まれない環境によって“教育”を受けられない子どもたちを少しでも支援したい、学校に行かせてあげたい、そしてダルニー奨学金ならば支援をさせていただくお子さん一人ひとりの写真や家庭環境などもわかり、それが社員全員のモチベーションにもつながると思い、ささやかながら支援を始めさせていただきました。

＜御社の社会貢献活動『夢の架け橋』について教えてください＞

『夢の架け橋』と名付けた社会貢献活動の根底には、常に“恵まれない環境の子どもたちへの支援”があります。本を読むこと、教育を受けること、安心して学校に通うこと…、私たち日本人にとっては当たり前のように思えることが、そうではない子どもたちが世界中にはたくさんいます。

貧困の連鎖・戦争・迫害・人種差別など理由はさまざまだと思いますが、たとえ弊社の活動が微力なものだとしても、純粋な子どもたちの就学支援に携わり、“継続は力なり”で途切れることなく支援し続けることが弊社の『夢の架け橋』プロジェクトの使命だと思っています。

＜19年間のご支援で印象に残っている出来事がありますか？＞

『僭越ながら、2010年に弊社は東京商工会議所から『第8回勇気ある経営大賞』の優秀賞を授与され、どん底の状態から頑張って会社を立て直し始めた軌跡を認めて頂きました。その時に副賞として賞金も頂いたのですが、弊社は優秀賞の栄誉だけを賜り、その賞金は民際センター様に全額寄付をさせて頂き、当時ラオスの学校などに2250冊の本をプレゼントすることができました。

その本が現地に届き、民際センター様から送られてきた本を楽しそうに読んでいた大勢の子どもたちの笑顔や真剣な表情の写真を、涙をポロポロ流しながら拝見した時のことが強く印象に残っています。

2025 年度はカンボジアへのご支援口数を増やしていただきましたが、差し支えなければ理由をお聞かせください。

ある雑誌で民際センター様の記事を読んで知った頃、私は 3 番目の子どもを亡くしていました。

「我が家には、男の子は縁がないのかな…」と落ち込んでいた矢先、民際センター様へのご支援をささやかながら開始することを決めた頃に、まるで生まれ変わりのように誕生したのが、現在大学 2 年生になる息子（20 歳）です。まるで、神様からのプレゼントのようでした。

親の背中を見てくれていたかはわかりませんが、大学生になった息子は本人の意志で国際ボランティアサークルにも在籍し、社会貢献に強い関心を持って活動に取り組んでいます。

大学 1 年生の夏休みの時期には、カンボジアの学校でボランティア活動に励み、現地の子どもたちとも交流を深めたことで親近感がさらに湧いたことが、ささやかながら弊社がカンボジアへのご支援口数を増やすきっかけになりました。

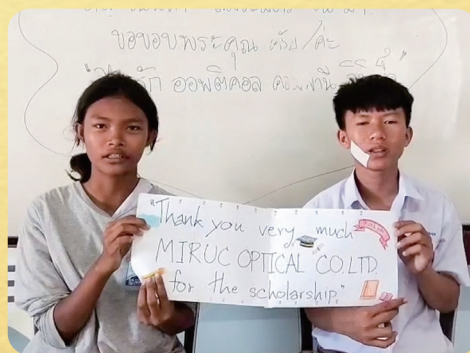
息子が誕生したタイミング、その後大学生に成長して偶然にも弊社がご支援をしている国へボランティア活動に赴く…、ドラマのような話ですが『社会貢献』をキーワードにしたご縁が息子の世代までつながっていき、民際センター様とのご縁も深まったことは、弊社としても、一人の父親としても嬉しく思っています。

大学 2 年生に上がる春休みの時期には、フィリピンの孤児院でボランティア活動に取り組んでいました。これからも恵まれない環境の子どもたちのために、広い視野を持って世界を巡り見識を広め、社会に役立つ人間になってほしいと思います。

社員の皆様のご支援に対する評判はいかがでしょう。

社員たちも、自分たちの仕事が製品となって産業界で活躍している以外に、直接的に『社会貢献』につながり、世の中のお役に立っていることを誇りに感じています。そうした意味でも、民際センター様へのご支援を途切れることなく継続させていただくことは、会社全体が使命感を持って仕事に取り組むモチベーションになっていることを実感しています。いつか必ず学校建設・教室建設などのご支援をすることも、会社としての目標になっています。

村松様のお人柄と志が詰まった、心動かされる貴重なお話をありがとうございました。『夢の架け橋』を通じていただいたご縁を大切に、私たちもご支援を現地へしっかりお届けしてまいります。



昨年度、タイ奨学生2名から届いた感謝のビデオより

メコン5ヶ国制服紹介 ～なぜ制服が!?!～

カンボジア



白い襟付きのシャツに、
下は紺か黒の
ズボンまたはスカート。



貧しいなら家にある服で学校に通
えばいいのに…と皆さんは思いませんか？
しかし、制服が存在する意味があるのです。ボロ
ボロのTシャツ、裸足で学校に来る子がいたらどうで
しょう。貧富の差が明らかになり、いじめなどの壁が生
まれてしまいます。このような状況を配慮して、メコン
5ヶ国では多くの学校で制服を導入しています。制服が
買えないような貧しい家庭に民際センターの奨学金は提
供され、子どもたちが学校に行くことができます。
皆様の奨学生がどんな制服を着ているのか、ぜひ
毎年届く奨学金証書の写真をチェックして
みてください♪



タイ

バリエーション豊か。
日本の制服のようなものから、
体操着、ボーイスカウトの
ようなものまで。



白い襟付きのシャツに、
女子はシンという紺色の
巻きスカート。
男子はズボン。



ラオス



ベトナム

白い襟付きのシャツに赤いスカーフ。
下は黒のズボンまたはスカート。
(赤いスカーフを撒けるのは
成績優秀者のみという学校もあるそう)



ミャンマー

男女共に白いシャツに、
緑のロンジーという巻
きスカート。

～ライターボランティア上田さんの民際コラム～

第1回：貧困の統計と現実

タイ経済の専門家である上田曜子さん^{*1}に、私たちが公に触れることのできるデータだけでは見えてこないリアルなタイ東北部の現実について伺いました。

私が研究者を志していた数十年前、経済学者は現地に足を運ばずに統計の数字ばかりを追っている、と批判されました。現在でも経済学者の間では、幅広いデータに基づいて精緻な分析を行う研究スタイルが主流です。今回は、タイの貧困問題を取り上げます。

タイ統計局によると、タイの貧困率^{*2}は2012年の16.7%から2023年には3.4%と大きく減少しました。民際センターの奨学生の多くが居住する東北タイでも、19.8%から4.2%と改善しています。このデータからは、タイは深刻な貧困問題を解決した国といえます。

ところが現実はどうでしょうか。私は2019年に、東北タイの小中一貫（9年教育）の学校を4校訪問しました。東北タイの中でも、貧困家庭の子供が通学する学校です。私には先生方の言葉が忘れられません。「生徒の80%の家庭は崩壊しています」、「生徒の30%は親から捨てられた子です」。

この地域の貧困層では、両親がバンコク等に出稼ぎに行き、子供は祖父母と暮らしているケースが多いのです。中には、両親と音信不通になり、送金も途絶えてしまう子供もいるそうです。両親が出稼ぎ先で離婚して、新たな家族をもってしまうというのが、その理由です。

データが示すように、タイの貧困率は大幅に減少して一見、貧困問題を克服できたように思われます。しかし、家庭が崩壊し親から見捨てられた子供たちは、どのような大人に育っていくのでしょうか。タイ人として誇りを持った大人になれるのでしょうか。データからは見えない貧困問題の深さを痛感したのです。

^{*2}途上国の貧困率は、国の総人口に占める貧困者の比率。値が大きいほど貧困の度合いが高い。算出方法には国際貧困線と国内貧困線を用いる2つの方法がある。本稿では、後者のデータを使用。

「貧困率4.2%」という明るいデータからは読み取れない影の部分が存在することに危機感を覚えます。民際センター創設から37年間取り組んでもいまだに奨学金の需要が絶えない理由の一つとなっています。

^{*1}上田曜子さん

1958年生。新潟県出身。学習院大学卒。同志社大学名誉教授。専門は開発経済学、タイ経済論。民際センターの支援者であり、これまでの経験を活かし現在ライターボランティアとして活躍中。

① プロボノ募集中

プロボノを募集しています。広報資料(チラシやパンフレット)をデザインしてくださる方や、動画制作、動画編集ができる方を募集しています。ご興味のある方は、民際センターまでお問い合わせください。



③ SNSもご覧ください

民際センターではSNS (Facebook、X、Instagram)でも情報を発信しています。

下記QRコードからご確認いただけます。

ぜひフォローして情報を随時ご確認ください!



www.facebook.com/minsai.org



www.twitter.com/minsaiorg



www.instagram.com/edf_japan



② 「支援者の声」を募集しています

皆様の声を民際センターのホームページやダルニー通信でご紹介させていただきます。ご支援された経緯、奨学生とのエピソード等、文章、動画、何でも結構です。民際センターまでお寄せください。

④ 民際センターでは、活動を支える「民際サポートプログラム」を随時受け付けております

民際センターや各国事業所の事業活動全般の他、支援対象国の教育の現状調査、支援者様への報告やサービス利便性の向上、デジタル化に対応するICT投資等、その他事業計画や活動そのものを支えるために活用いたします。

詳しくはホームページをご参照ください

<https://www.minsai.org/msupport/>



クレジットカードによる自動引落はこちらから
マンスリーサポート(毎月定額のご支援)
<https://www.minsai.org/donate-minsairyoku/>



郵便振替でのご支援はこちらから
ゆうちょ銀行 振替口座 00160-7-664928

編集 後記

役員変更等もあり、事務局の体制が大きく変わりましたが、ようやく少しずつ整いつつあるのを感じています。まずは皆様からいただいた大切な支援を確実に子どもたちに届けることができるように尽力すると共に、新しい考え方や方法も取り入れつつ、改善の余地のある部分を見つけ、地道に取り組んでいきたいと思っています。今年は代々木公園で行われるカンボジアフェス・ラオスフェスにも久々に出店いたします。もっと外に向けて扉を開き、たくさんの方々に関わる機会を増やしていければと思っています。

▶「ダルニー」とは… 民際センターが奨学金を募り1対1の教育支援を始めるきっかけとなったタイの女の子の名前。



公益財団法人
民際センター

公益財団法人 民際センター

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル7F

TEL : 03-6457-5782 / FAX : 03-6457-5783

E-MAIL : info@minsai.org / HP : www.minsai.org